

スプレー缶類収集のルール変更について

1 ルール変更までの経緯

(1) 排出方法を見直した理由

ア スプレー缶類の穴あけによる爆発・火災事故により、平成 26 年 3 月に中央区 1 名、平成 27 年 5 月に南区で 2 名の市民が亡くなっていること。

イ 指定ごみ袋に混入した中身が残っているスプレー缶類が原因とみられる収集車両火災が毎年 50 件以上発生していること。

ウ 市民アンケートにおいて、穴あけしていない人の理由では「穴あけが面倒・危険（57%）」また、穴あけに協力していても「穴あけに不安がある（38%）」といった結果が出た。

エ 環境省では、穴あけなしを推奨していること。

(2) 変更内容について

ア 変更前 「穴あけあり」「燃やせないごみの日」

↓

↓

イ 見直し後 「穴あけなし」「燃やせるごみの日」

(3) モデル地区収集について

ア 内容

全市実施に当たって、排出量や新しいルールの協力度の基礎資料とするため、平成 27 年 10 月に清田区の一部をモデル地区とし、平成 28 年 4 月にモデル地区を清田区全域へと拡大して検証実験を実施した。

イ モデル地区での実施状況〈抽出調査（戸建・共同住宅・高層住宅地区）〉

ルールが守られ全て「使い切って」「穴をあけず」「別袋」で排出されている（有料指定袋への混入は見られなかった）。

(4) 排出ルール変更の全市実施時期について

モデル地区での良好な結果を受け、平成 29 年 7 月から全市的にルールを変更した。

2 ルール変更後の結果

清田区のモデル事業の実績から当初 2 週間の排出量が多いことを懸念していたが、排出量の実績が想定量を下回り、懸念していたような収集作業の遅延やごみステーション管理の負担増は起こらなかった。

また、スプレー缶類排出ルール変更後、スプレー缶類の穴あけ事故は発生しておらず、車両火災件数の平成 29 年度 7 月～3 月までと平成 28 年度の同時期を比較すると、車両火災件数のうちスプレー缶類を原因とするものは 39 件から 13 件へと 26 件減少している。

ごみ収集車の

火災をSTOP!!

主な火災の原因は…
スプレー缶・
カセットボンベ!



正しいごみ出しで火災をSTOP!

1 出し方は…

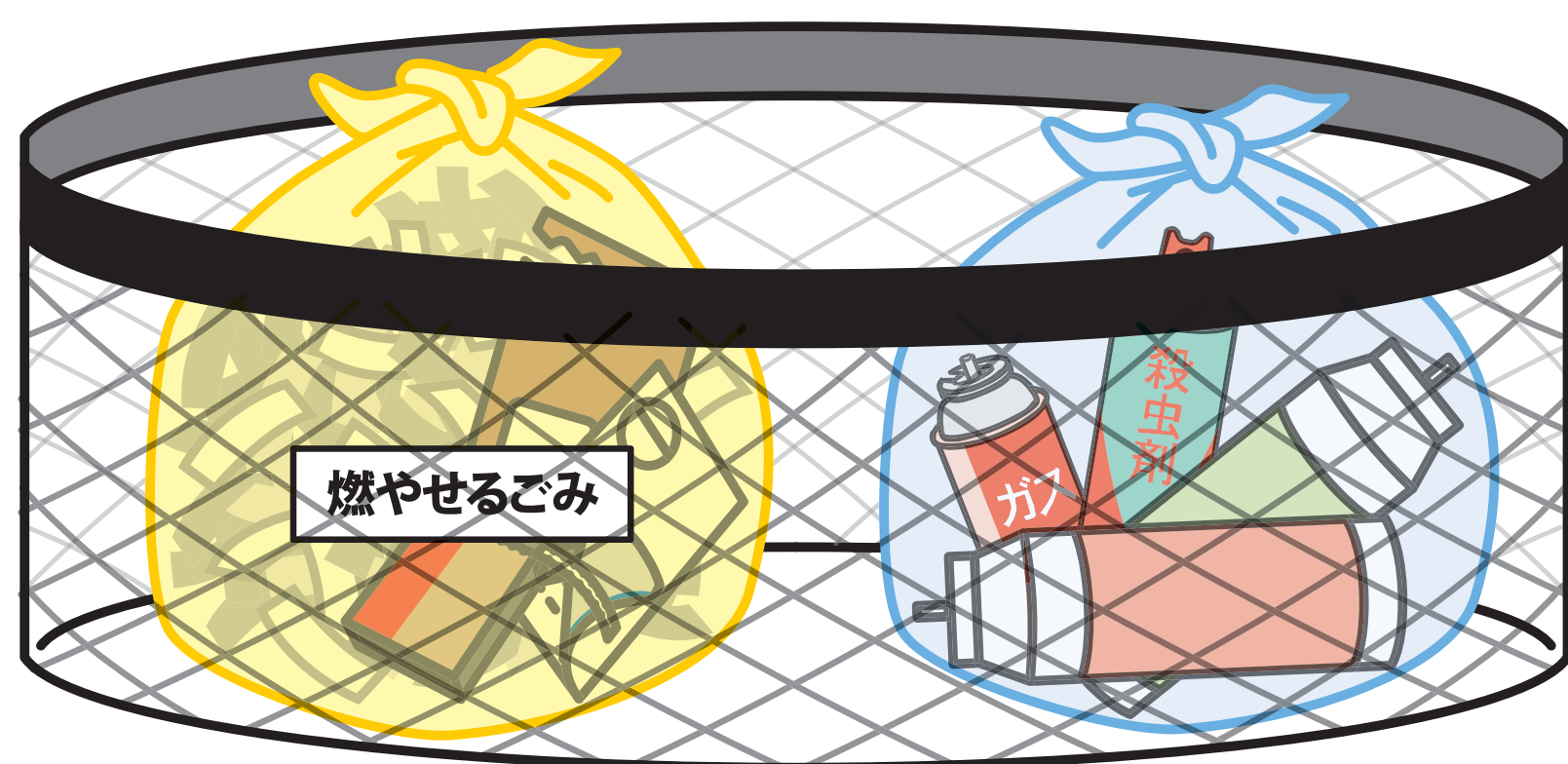
中身を使い切って、
穴をあけずに
透明または
半透明の
袋に入れ



ごみステーションに!!

2 出す日は…

燃やせる
ごみの日と同じ日



もう1つの
火災原因…
ライター!



燃やせないごみの日に別袋で!



正しいごみ出しでまちをキレイに安全に!

札幌市環境局

SAPP
RO



05-J01-18-214
30-5-1